



# 柏木だより

令和8年3月16日(月)

八王子市立柏木小学校

3月特別号

教育目標： 自分を育て ともに育つ子

◎つたえあう(重点目標) ○わかりあう ○きたえあう

本校HP URL：<http://hachioji-school.ed.jp/kswge/>



## 令和7年度 八王子市立柏木小学校 学校経営報告

校長 前田 奈緒美

令和7年度の学校経営計画について、学校評価(児童・保護者・地域・自己評価)を基に、取組状況や次年度に向けた主な課題などをお知らせいたします。

### 1 学校経営の基本方針

「どの子ども幸せになるために生まれてきた ーすべての児童が笑顔になる学校づくりー」を目指し、一人ひとりの児童の可能性を最後まで信じぬき、可能性を伸ばしていく。「学校は何ができるのか」を常に問い続け、教師が児童の手本となって学び続ける。

#### 教育目標

自分を育て、ともに育つ子 <自立と共生、自他の幸せ>

◎つたえあう(表現力、コミュニケーション力)

○わかりあう(学び合い、認め合う心、相手の気持ちを想像できる心)

○きたえあう(頭(知)心、体をバランスよく)

### 2 目指す学校像

#### (1) 子ども一人ひとりがよさを発揮し、よさを認め合ってどの子ども育つ学校

##### ①インクルーシブ教育の充実とユニバーサルデザインの学校

さまざまな違いや課題を越えて、すべての子どもが同じ環境で学び合う教育を充実させるため、特別支援教育等の視点を重視し、全ての子どもが安心して通うことのできる学校をつくる。

##### ②一人一人が輝く学校

子どもの思いや願いを大切にし、成功体験を積み重ね、自分らしさを発揮できる学校をつくる。夢や理想を追い続ける気持ちを大切にする学校をつくる。

#### (2) 意欲的に学び続けるために必要な基礎・基本を身に付けられる授業が充実した、どの子ども育つ学校

##### ①主体的・対話的で深い学びと「話す」「聴く」の活動

主体的・対話的で深い学びの視点から、全教育活動を通して「話す」「聴く」の活動を中心に、言語活動を充実させ、自分の考えを発信する力と相手の話を受け止める力を養う。

##### ②学習用端末の活用と問題解決能力の向上

1人1台の学習用端末を活用した授業実践(習得、活用、探究につながる授業)により、確実な知識を身に付け、理解を深めるとともに問題解決能力の向上をめざす。

##### ③「心、体、頭」がバランスよく育つ学校

基本的な学習習慣と基礎学力を定着させる。学ぶ楽しさを味わわせ、体験活動を重視する。

#### (3) 家庭や地域との協働で、どの子ども育つ学校

##### ①家庭との協働(【柏木保護者宣言】の浸透)

基本的な生活習慣の確立(「早寝、早起き、朝ご飯」等)。

聴き上手、時間厳守、あいさつの励行。

食育、健康教育の実践とともに家庭学習の充実。(3分間音読)

事故、事件、災害から我が子を守る。

##### ②地域との協働

地域教材、地域人材を活用した特色ある教育活動への協力。

健全育成教育(あいさつ運動、クリーンデー、交通安全教育、防災・防犯教育)。

地域の大人が子供のよき手本となる。

#### (4) 組織的な学校運営を行い、家庭や地域から信頼される開かれた学校

##### ①「授業は教師の命」との認識に立って、授業の改善に中断なき努力をする教師

- 若手教員の育成を中心に、校内研究やOJTを充実し、ICTの活用をすすめ、学び続ける教師集団。
- ②一個の人間として、子供たちのよき手本となる生き方をする教師  
失敗を恐れずに新たなことに勇気をもって挑戦し、責任を果たす教師集団。  
児童・保護者・地域を大切に、互いに協力し合える教師集団。  
教育公務員として、法を遵守する教師集団。（服務事故0）
- ③教育のプロとして、家庭や地域から信頼される教師  
常に危機管理意識をもち、重大事故0をめざし、子供の命を守り抜く教師集団。  
いじめの未然防止、早期発見、早期対応に本気で取り組む教師集団。  
不登校児童への支援、職場環境の改善（パワーハラスメントの根絶）、保護者私費負担の軽減。  
地域運営学校、南大沢中学校・南大沢小学校との小中一貫教育、近隣の保育園・幼稚園・認定こども園との保幼小連携、たよりやHPによる情報の発信、日常的な学校公開（年3回土曜授業等）、学校評価を道標とする学校改善。

### 3 中期経営目標、今年度の取組目標と方策

A:90%以上達成 B:70%以上達成 C:50%以上達成 D:5

(1) 子ども一人ひとりがよさを発揮し、よさを認め合ってどの子ども育つ学校

中期経営目標(R7~9)	令和7年度取組目標と方策(◎重点目標)	達成度	検証
① インクルーシブ教育の充実とユニバーサルデザインの学校	◎毎月の特別支援校内委員会やケース会議等を行い、支援の必要な児童が安心して学校生活を送ることができる環境を整える。 ○特別支援研修会を通して、全教員がカウンセリングマインドを身に付け、子ども一人ひとりの理解と個に応じた手立ての充実を図る。 ○学習環境の整備（「柏木スタンダード」の浸透、椅子や机の防音(テニスボール)・教室掲示物の工夫)	B	・特別支援校内委員会の会議を精査し、機動力のある組織に変更した。迅速な対応で別室指導や外部機関との連携を進めることができた。 ・令和8年度は、校内研究を通して教職員が特別支援教育の手立てを身に付け、学習環境の整備を行っていくことが課題である。
② 一人ひとりが輝く学校	◎一人ひとりが力を発揮できる場と時間の設定（特別活動の充実）（たてわり班活動・音楽朝会や体育朝会・こどもまつり・柏木名人大会） ◎特別活動の充実と異学年交流を多く設定する ◎不登校児童の居場所づくり ○人権教育・環境教育（SDGs：通年の牛乳パック・ペットボトルキャップ・うわばき回収）の充実 ○道徳教育を中心とした「命を大切にする子」の育成 ○簡単にあきらめない「強い心」の育成 ○あいさつの推進	B	・特別活動の充実を図り、児童一人ひとりが活躍できる場を保証できた。 ・不登校児童の校内の「居場所」の整備をさらにやっていくことが課題である。

(2) 意欲的に学び続けるために必要な基礎・基本を身に付けられる授業が充実した、どの子ども育つ学校

中期経営目標(R7~9)	令和7年度取組目標と方策(◎重点目標)	達成度	検証
① 主体的・対話的で深い学びと「話す」「聴く」の活動	◎全教育活動を通して「話す」「聴く」活動を中心にした言語活動の充実 ◎「わかる」体験を通し、すすんで学ぶ意欲と態度の育成 ◎地域教材・地域人材を活用した授業を通し、自ら課題を見つけ主体的に解決する能力や態度を育成	B	・「話す」「聴く」について、様々な場面で今後も継続して扱っていく。さらに、自分の考えを「書く」場面も充実させていくことが課題である。
② 学習用端末の活用と問題解決能力の向上	◎ICT機器を活用し、基本的な知識（習得目標問題）の確実な定着と問題解決能力の向上 ○全学級でミライシードを活用し、1人1台の学習用端末の有効な活用と個に応じた学習	B	・地域教材・地域人材を活用し、自ら地域に関わろうという意識を育成した。

<p>③ 「心、体、頭」がバランスよく育つ学校</p>	<p>【確かな学力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎一部教科担任制及び算数と少人数指導の実施</li> <li>○学力補充週間（年2回）、計算大会（学期に一回）と漢字検定（年一回）の実施による基礎学力定着の取組</li> <li>○6年生対象の放課後補習教室の実施（年間25回程度、国語・算数）</li> </ul> <p>【豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○読書活動・読書週間（電子図書の活用・朝読書・図書Vの充実・親子読書の推進）</li> <li>◎体験的活動の充実（本物との出会い）</li> <li>○あいさつ運動の推進</li> </ul> <p>【健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎体力調査の結果（柔軟運動）を活かした体育科授業の充実</li> <li>○外遊びの奨励と体力向上月間（ともあそび・持久走・大縄集会）の取組</li> <li>○体力向上月間（持久走・大縄集会）の実施</li> <li>○食育、健康安全教育の実施</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習用端末を必要な場面で活用し、個に応じた学習に取り組ませることができた。</li> <li>・算数少人数授業の展開、学力補充週間の取組、計算大会と漢字検定の実施を通して、基礎学力の定着を図ることができた。学力に課題のある学年もあるため、学ぶ意欲を向上させていくことが課題である。</li> <li>・実体験から学ぶ機会を多く設定することができた。</li> <li>・各学年の体育科の授業で柔軟運動を中心に取り組んだ。</li> <li>・週1回のともあそび、年2回の体力向上の取組を実施した。すすんで外遊びを楽しむ児童が多かった。</li> </ul>
-----------------------------	--	----------	--

(3) 家庭や地域との協働で、どの子ども育つ学校

<p>中期経営目標(R7~9)</p>	<p>令和7年度の取組目標と方策(◎重点目標)</p>	<p>達成度</p>	<p>検証</p>
<p>① 家庭との協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「柏木保護者宣言」の浸透</li> <li>○基本的な生活習慣の確立（「早寝、早起き、朝ご飯」等）</li> <li>○聴き上手、時間厳守、あいさつの励行</li> <li>○食育、健康教育の実践とともに家庭学習の充実。（3分間音読）</li> <li>○事故、事件、災害から我が子を守る意識の醸成</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりや保健だよりを通して、家庭への呼びかけを行った。</li> <li>・児童が大きな事故、事件、災害に巻き込まれることがなかった。</li> </ul>
<p>② 地域との協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎地域教材、地域人材を活用した特色ある教育活動への協力依頼</li> <li>○地域・社会に貢献する（地域行事への参加推進）</li> <li>○健全育成教育（あいさつ運動、クリーンデー、交通安全教育、防災・防犯教育）</li> <li>○地域の大人が子供のよき手本となる</li> <li>○「地域の部屋」の有効活用と充実</li> <li>○地域自主防災への協力</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面で、地域の協力を得ることができ、教育活動に活かすことができた。</li> <li>・地域行事への参加を呼びかけ、令和6年度より増えた。</li> <li>・あいさつ運動や清掃活動は地域に定着してきている。「地域の部屋」を、平日も地域の人の活動の場としていくことが課題である。</li> </ul>

(4) 組織的な学校運営を行い、家庭や地域から信頼される開かれた学校

中期経営目標(R7~9)	令和7年度の取組目標と方策(◎重点目標)	達成度	検証
① 「授業は教師の命」との認識に立って、授業の改善に間断なき努力をする教員集団	◎毎時間の見通しをもたせ、児童が達成感を味わえるわかりやすい授業と適正な評価 ○ICT機器の活用 ○学力調査の結果の分析による授業改善 ◎校内研究の推進(生活科・総合的な学習の時間) 地域人材・地域教材を活かした計画的な学習を全校の取組とする ○若手教師を中心とした教員育成、OJTの充実 ◎授業の積極的な公開、外部の研修会への積極的な参加と校内への還元、専門性の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ねらい」と「評価」に重点を置いた授業を実施してきたが、まだ改善の必要がある。</li> <li>・生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムをまとめ、新たに福祉の分野でも地域人材を活用することができた。</li> <li>・小教研の授業参観等、すすんで研修に参加しているが、校内への還元と教員の指導力向上が課題である。</li> <li>・OJTを定例化することができた。</li> </ul>
② 一個の人間として、子供たちのよき手本となる生き方をする教職員集団	◎一人ひとりの児童理解と丁寧な対応(子供の言い分を聴き、心に寄り添う・日常的な人権感覚・児童の発案を大切にす・男女の不要な区別をしない) ○一人一人を大切にし、一日1回は全員と会話 ◎教職員自らが、教育目標を体現し、自分の責任を果たしつつ新たなことに挑戦(教職員同士、つたえあい、わかりあい、きたえあう)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が児童の手本になれるよう、同じ目標をもって学校運営に取り組んでいくことが課題である。</li> </ul>
③ 教育のプロとして、家庭や地域から信頼される教職員集団	○教育公務員として、法を遵守する教職員集団(服務事故0) ◎働きやすい職場づくり・教員自身による働き方改革 職場環境の改善(パワーハラスメントの根絶・校務改善と働き方改革の推進) ○危機管理意識を高め、子供の命を守り抜く ◎いじめに対する組織的対応(早期発見(毎月アンケートの実施)、早期対応、早期解決「どちらも大切な本校の子とのスタンスを堅持) ○学校運営協議会や関係諸機関と連携し、地域コミュニティの中心となる(3校合同学運協の開催・年1回の教職員への研修の実施と学校コーディネーターの活用) ◎南大沢中学校、南大沢小学校と連携した9年間の小中一貫教育の推進(合同授業・体験授業、行事の交流、中学校教員による6年生の算数授業指導) ○近隣大学等との連携による留学生との国際交流 ○由木あすなる保育園・南多摩幼稚園等と保幼小連携を行い、虹の架け橋プランの作成	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が、働きやすい職場づくりを意識し、お互いを思いやる気持ちをもって取り組んでいくことが課題である。</li> <li>・いじめ対応のための時間を活用して、全教職員で児童に関する情報等の共通理解を図り、早期対応をすることができた。</li> <li>・南大沢中学校、南大沢小学校と連携し、キャリア教育の計画を作成することができた。</li> <li>・由木あすなる保育園・南多摩幼稚園との保幼小連携を行い、「虹の架け橋プラン」を作成することができた。</li> <li>・保護者の学校評価の回収率を上げるため、実施方</li> </ul>

	<p>○HP、Home&amp;School による情報発信、日常的な学校公開（年3回土曜授業等）、学校評価を含む学校経営に関わる様々なデータや情報を活かした学校改善</p> <p>◎保護者私費負担の軽減</p> <p>◎学年や分掌を核とした学校運営を行い、児童・保護者対応に全教職員で取り組む</p>		<p>法を変更したが、さらにリマインド機能を使って回収率を上げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の負担を軽減する取組を継続し、最小限の価格上昇に抑えた。</li> </ul>
--	---	--	--